

人・本・学びの未来をつくる

共読ライブラリー

MELIC

Teikyo University

共
読



共読ライブラリー

個人の読書も、新聞の書評も、書店や図書館の書棚企画も、本を取り巻く環境は読みっぱなし、言っぱなし、ほったらかしになっている。これを「共読」というコンセプトで一挙に「見える化」し、相互に関係づけようとするのが共読ライブラリーである。2012年4月、帝京大学メディアライブラリーセンターと編集工学研究所による合同チームが発足し、本と人と場をイキイキと動かす図書館エンジニアリングがスタートした。このプロジェクトは、学生の読書欲を掻き立て、学力の向上と情報編集力の獲得を目指す4年間のプロジェクトに発展し、全学規模の総合的で継続的な読書プログラムを実施することになった。

従来の自己完結型読書ではない、発展的循環型の読書形態を通して、学生や教員や職員が、地域や企業やゲスト著名人等と交流するあたらしい図書館コミュニティやブッククラブやリーディング・ commonsの苗代として期待をあつめる。

「共読」とは

松岡正剛が考えた「共読」とは、本を薦めたり、連ねたり、読み合わせたり、評し合う読書の形態である。普通の読書が自己完結型とするなら、「共読」は発展的循環型の読書と言える。

さらに「共読ライブラリー」は、図書館を中心として「共読」のための環境を整える全学的プログラムである。本のユニットやネットワークを意識する読書の仕掛けで学生の主体的な読書行動を活発化させ、「共読」を全学的に展開することで、学士力の向上、アカデミックスキルや情報編集力の獲得を支援することができると考えている。



松岡正剛
Seigou MATSUOKA

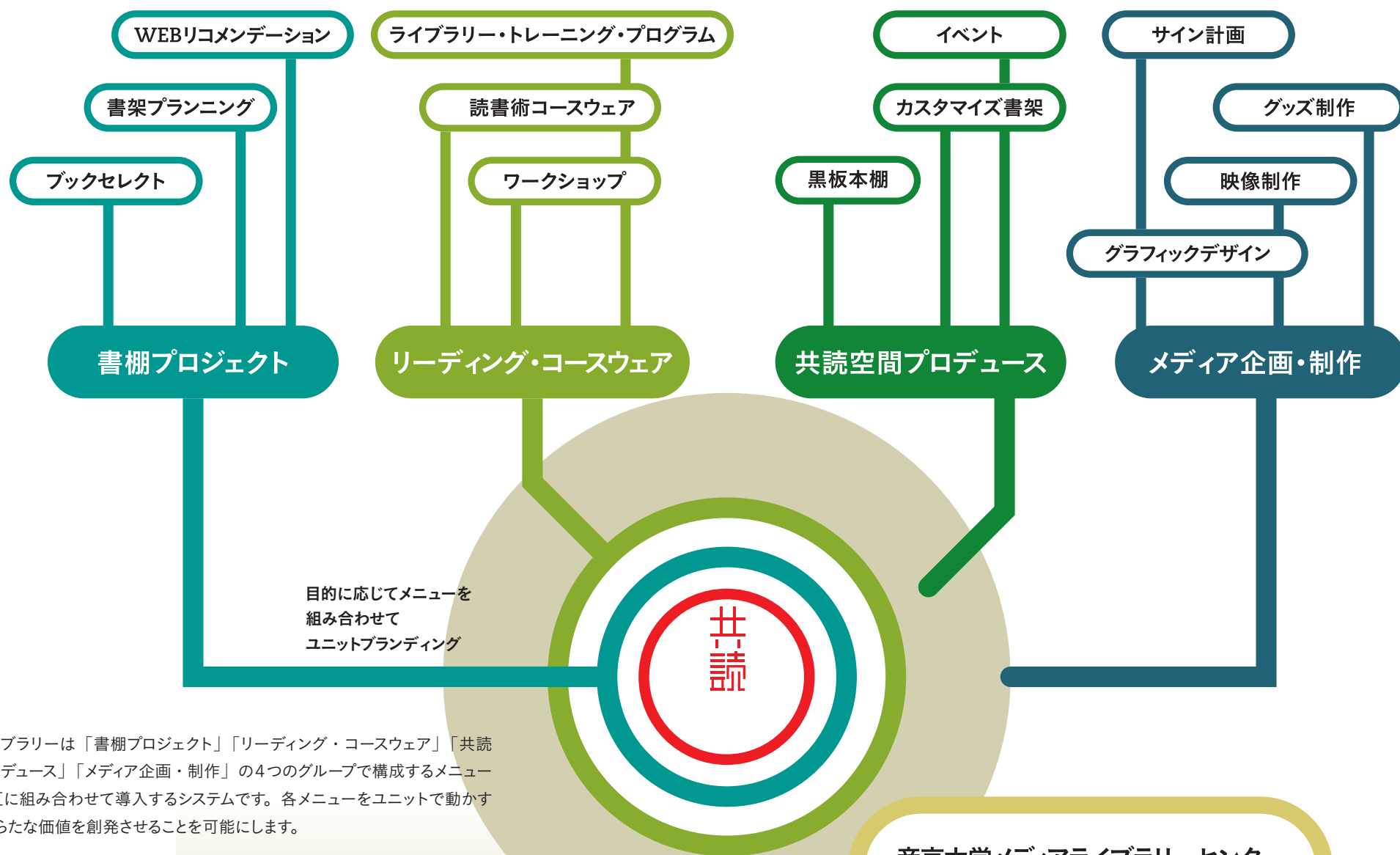
1944年、京都生まれ。工作舎設立、オブジェマガジン『遊』編集長、東京大学客員教授、帝塚山学院大学教授を経て、編集工学研究所所長・イシス編集学校校長。情報文化と情報技術をつなぐ研究開発プロジェクトに携わる。日本文化研究の第一人者として私塾を多数開催。09年～12年に丸善・丸の内本店で伝説の書店「松丸本舗」を展開。主な著書に『松岡正剛千夜千冊（全7巻）』『松丸本舗主義』ほか多数。



共読システムと図書館ブランディング

CO-Reading system and Library Branding

〈人・本・学び〉をつなぐインタラクティブ・システム



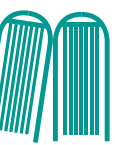
共読ライブラリーは「書棚プロジェクト」「リーディング・コースウェア」「共読空間プロデュース」「メディア企画・制作」の4つのグループで構成するメニュー群を相互に組み合わせて導入するシステムです。各メニューをユニットで動かすことであらたな価値を創発させることを可能にします。

帝京大学メディアライブラリーセンターでは、ハードウェア・ソフトウェア・ヒューマンウェアを有機的につなげるトータルな図書館ブランディングを進めるため、総合的な仕組みづくりを構築します。

編集工学研究所と松岡正剛の人脈によって
各界のプロフェッショナルと縁側ネットワークを形成

帝京大学メディアライブラリーセンター
Teikyo University MELIC

編集工学研究所
Editorial Engineering Laboratory

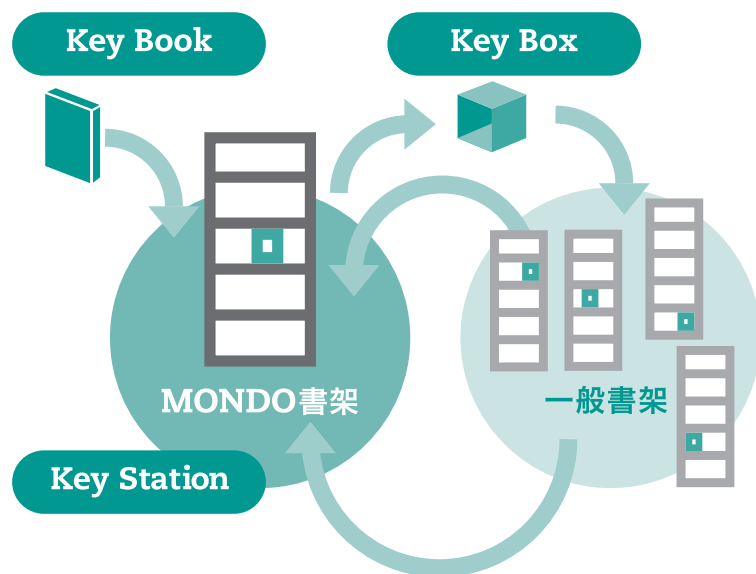


書棚プロジェクト

Bookshelf Project

本から本へ出会う共読ライブラリー空間

書架プランニング



共読ライブラリーでオススメされた本やリコメンド・メッセージはMELIC1Fの「キーステーション」やOPACシステムを経由して発展的循環型ネットワークコンテンツを創出します。また各棚に指定された「キープック（鍵本）」は「キーボックス」とセットで館内を巡回し、学生が本から本へ出会う環境をサポートします。

MONDO書架

共読効果を高めるために開発した「黒板本棚」をつかって、メッセージを伝えあう書棚プロジェクト。「問い」と「答え」のMONDO（モンドウ）ゲームをコンセプトに、学生とライブラリアン、著名人と学生、教員と学生のあいだで、問いを立てながら共読を体験する。



ブックセレクト

MONDO書架



TEIKYO MONDO：ライブラリアンや学生がつくる問答棚

Career MONDO：教員がキャリアを切り開くヒントを伝える問答棚

Life MONDO：人生や生き方を読み解く問答棚

Special MONDO：ゲスト著名人が学生の質問に本で答える問答棚

New Books：ライブラリアンが週替わりで旬なオススメ本を紹介する棚



書棚プロジェクト

Bookshelf Project

College MONDO

カレッジ・モンドウ

3冊読んで質問すると、本で答えが返ってくる。

- ①期間中にMELICで3冊借りてエントリーフォームをゲット。(注)
- ②ゲストに聞きたい「悩み」や「質問」を記入して指定のBOXに投函。
- ③ゲストが質問に対する答えとして「本」をセレクト。
- ④MONDOとしてゲストからの「本&メッセージ」を発表。

注) 期間内、MELICから何度でもエントリーできます。

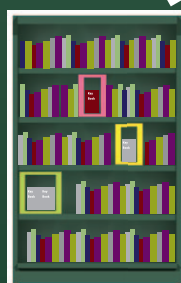
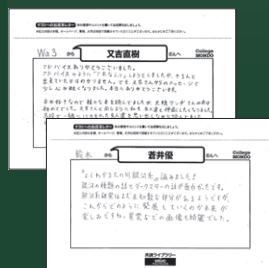


ヴリスロキ「ジプシーの伝説とメルヘン」を借りて蒼井優さんに質問です。



山口瞳「結婚しません」を借りて又吉直樹さんに質問です。

◎学生からゲストへの「お返事レター」
「又吉さんからのメッセージで少し心が軽くなりました。」
「最高に胸がザワザワしました。素敵な本を紹介していただきありがとうございます。」



DISPLAY

ゲスト著名人の「本とメッセージ」は小林昌二館長から学生に「MONDOセレクト」として贈られた。



「20歳のときに読むとよい本はありますか。」
——ひとみ(教育学科2年)

「K-POPが好き過ぎて、リアルな恋愛ができません。どうしたらいいですか。」
——あちごみき(外国語学科2年)

本も遊びも人生も
「問い」と「答え」の
MONDOゲーム

ASK YOUR QUESTION

問

2
「質問」
エントリー

MONDO
question

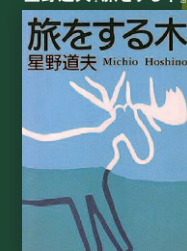
REQUEST QUESTIONS

3
ゲストが
「本」を
セレクト



(又吉直樹セレクト)
小谷野敦「悲望」

(蒼井優セレクト)
星野道夫「旅をする木」

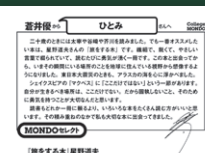
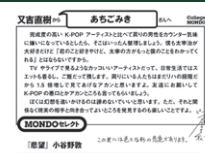


MONDO
selection

4
「本」と
「メッセージ」
発表!

答

ANSWER
BY BOOKS



「この世には色々な形の恋愛があります。」
——又吉直樹

「繊細で、鋭くて、やさしい言葉で綴られていて、読むたびに勇気が湧く1冊です。」
——蒼井優





リーディング・コースウェア

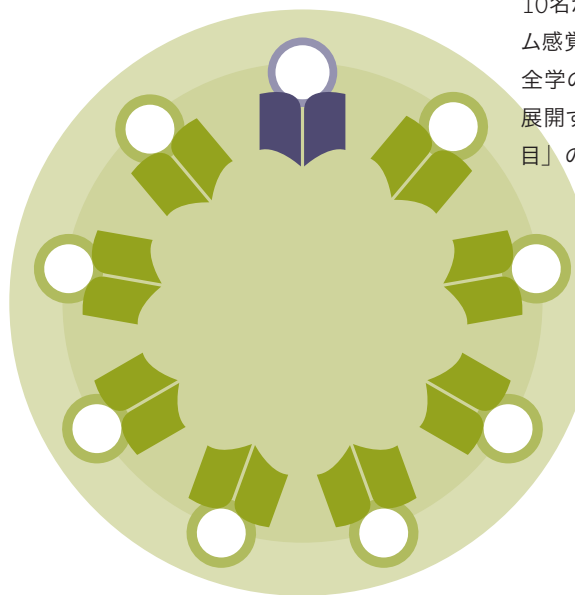
Reading Courseware

めざせ読書アスリート

Web版 読書術コースウェア

初級篇

学生の学習基礎力向上と情報編集力の獲得を目標として「読書術コースウェアWeb版」を導入。これは編集工学研究所の「読書術レッスン『序』」を帝京大学用としてカスタマイズしたもの。コーチ役の共読ナビゲーターとともに1教室に5～10名が乗り合うなか、3週間で8題の「お題」をゲーム感覚で相互学習する。今後は、この初級コースを全学の導入教育や入学前の学習プログラムとしても展開する予定で、学科と連動した「リアル版読書科目」の実施も視野に入れる。



もくじる

目次に沿って一冊の構造をしっかりと掴む。

しるしる

地図を読むように大切な所にマーキング。

ぶんぶん術

10分で一冊の内容を要約編集。



ようやく編集

文章から「文意」を取り出し連想的に拡張する。



いっついさん

情報を“ペア”にする課題でイメージをマネージ。



共読ノート

学んだ読書術を応用し、一冊の内容を400字に圧縮編集。



ふりかえり

「共読ノート」を交わして、相互に発見や不足を共有する。

読了

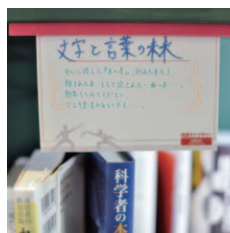


一冊の本を手にとスタート

「読書術コースウェア」では、教員と図書館職員と編集工学研究所が厳選した課題本を1人1冊手にします。

ワークショップ

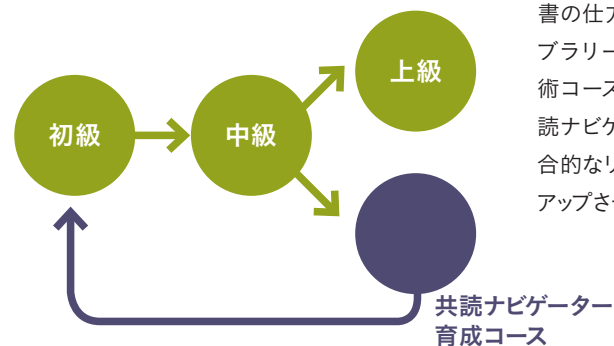
テーマを立て、本を選び、本を並べ、オススメする。簡単なようで奥深い本棚ワークショップを通じて2012年秋には有志の学生グループで編成する「共読サポーター」が誕生。本棚を介して本と人が交流するブッククラブのスタートとしてさまざまな共読プログラムを予定。



1冊との出会いをきっかけに、本と本のカップルをつくり、10冊程度のファミリーを形成していくプロセスが学生の好奇心をかき立てる。



読書術コースウェアの仕組み



在学中に“読書力”を研鑽し、学んだ内容を身につけるもっとも効果的な方法は、読書の仕方を“教える”ことである。共読ライブラリーは、初級・中級・上級の読書術コースから「教える側」に成長する共読ナビゲーター育成コースまで学生の総合的なリテラシー能力を段階的にステップアップさせる仕組みを構築する。

ついつい読みふけてしまい、読者を引き込むような面白さがありました。

——初等教育学科1年・男

読書が苦手な私でも、「多読」できるようになったと思った。これを機にいろいろな種類の本を読みたい。

——初等教育学科1年・男

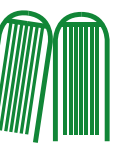
今まで自分で読書した時よりはるかに、よく本の内容を理解できました。

——初等教育学科1年・男

共読してみると、自分以外の人が何を思って本を読んでいるかが分かり面白かった。

——初等教育学科1年・男

学生の受講後コメント



共読空間プロデュース

Space Renovation

総合的で継続的な共読プログラムを実施するための環境づくりを空間デザインのプロフェッショナルがサポートします。帝京大学では、黒板本棚の導入から図書館全体のサイン計画まで、ソフトとハードを連動させるトータルな共読空間の実現にむけて、学生の主体的な読書体験を総合的に展開します。



黒板本棚



3つのサイズがある黒板本棚は松岡正剛監修によって、帝京大学に誕生したオリジナル書架。一般書架とも連動可能なように着脱可能な5色のキーボックスを配置。チョークで書き込みできる独特の仕様は、書棚がメッセージを発信するメディアになることを可能にした。また、本を介したコミュニケーション・ツールとして、職員や学生がイキイキと伝えるメッセージが図書館のシンボルになっている。

Sサイズ
(W450×D320×H1860)
Mサイズ
(W850×D320×H1860)
Lサイズ
(W1250×D320×H1860)

カスタマイズ書架

図書の分類は変えられないが、書棚で本と出会うという希望から、一般書架の側板デザインを変えるライトバージョンが登場。写真下は、フランツ・カフカの著書を集める書棚。「私は、読者である我々を大いに刺激するような書物だけを読むべきだと思う。」というカフカ本人の引用文が見出しを飾り、遠い国の著者との共読感覚を仕掛ける。



メディア企画・制作

Media planning and production



サイン計画

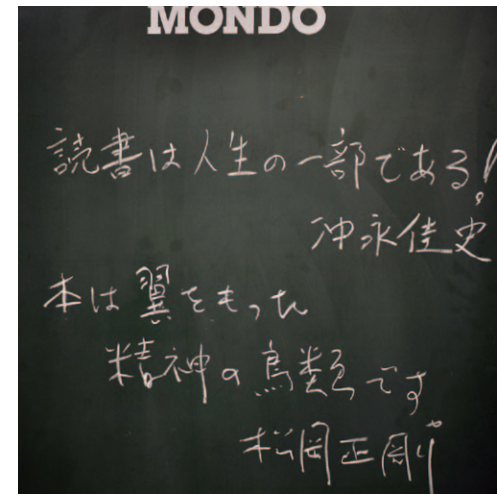


本棚用のピクトグラム企画。左上から時計回りで「暮らす」「探す」「歩く」「読む」「耽る」「見つける」「交わす」「超える」「目指す」「贈る」といったテーマコードを持つ。図書館の常識にとられない仕掛けで共読のための視覚的実験を継続的に強化したい。

イベント

プロジェクト全体のお祭り演出としてブックイベントやブックライブを多数実施予定。写真は、共読ライブラリーのキックオフイベントとして2012年7月に開催した松岡正剛と沖永佳史帝京大学学長による公開対談の風景。登壇者が黒板ヘメッセジを書き込むのは恒例になりそうだ。

松岡正剛
沖永佳史





共読ライブラリーの展望

Outlook

動きだす MELIC BOOK CLUB

図書館の物語編集

図書館の基本的なインフォメーション・サービスの向上とともに
シンボルやキャラクターによってサイン計画を見直し
本と人のあいだのストーリーを醸成。

共読を体験するイベントやコンテストの開催

図書館の内外で、学生、教員、卒業生、地域住民
企業、外部ゲストが交流する場づくりへ。

教育との連携で新しい「学び」の創出へ

オンラインの読書術コースウェアとリアルな授業を組み合わせ
学生が楽しみながら読書力を高める
新しいハイブリッド授業の実現へ。

「人」「本」「学び」が交差する共読ソサエティ

MELIC BOOK CLUB の実現を目指して
学生主体の「共読サポーター」が動くことで
全学的な共読ソサエティの発動へ。

メディア発行・映像配信・グッズ販売

情報を発信する拠点として図書館機能を拡張し
共読ライブラリーの活動を
全国の図書館と共有するプラットフォームづくりへ。

帝京大学メディアライブラリーセンター 共読マネージャー



中嶋康

帝京大学メディアライブラリーセンター グループリーダー

学生が黒板本棚の前でメッセージを読んでいる。おっ、本を手にとった。……なるほど、いいキャッチコピーだ。本当にうちの職員が書いたのか？ あっ！またひとり！！ピース又吉の問答を見つめてる！熱心だな。……そうなのだ。このささやかな変化にどれだけ膨大な努力と連続的な仕掛けが必要なことか。しかもこの変化はこちらが動きを止めれば終わってしまう。風邪をひくなら風をあつめて、と何処かで言われているようだ。



中満恒子

帝京大学メディアライブラリーセンター チームリーダー

先日、学生から「黒板書架空間にもっと長く居たいから、中を広くしてほしい」と言われ、共読ライブラリープロジェクトの広がりをジワジワ感じています。展示書架設置計画からはじまったこのおぼけプロジェクトで『図書館をテーマパークに!! 目立たなくてどうする』をモットーに、学生・教員・職員一丸となって「暗い、まじめ、ダサイ」の図書館イメージを打ち崩す、新しい図書館像を模索中です。



辺見純子

帝京大学メディアライブラリーセンター チームリーダー

“共読ライブラリー”という合言葉のもと、空間が、サービスが、そしてそこに流れる空気がイキイキと変わり始めました。お父さんが営んでいた貸本屋、初恋の人が読んでいた本……教員や学生が静かに語り出す横顔に「本は人とつながってこそ面白い!」と実感する日々です。編集・空間・デザインのプロたちと仕事をする中、図書館員が本から始まり、本に戻る接点のプロになればいいなと思います。

共読ライブラリーについてのお問い合わせ

〈見学・事例詳細について〉

帝京大学メディアライブラリーセンター

中満恒子(ナカミツ ツネコ)・辺見純子(ヘンミ ジュンコ)

〒192-0395 東京都八王子市大塚359

Tel:042-678-3407 fax:042-674-8876

lib-all@main.teikyo-u.ac.jp

〈導入に関するご相談について〉

株式会社 編集工学研究所

榎田理 (クシダ オサム)

〒107-0052 東京都港区赤坂7-6-64

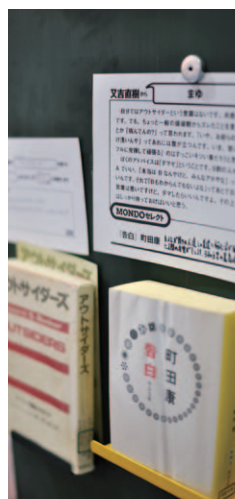
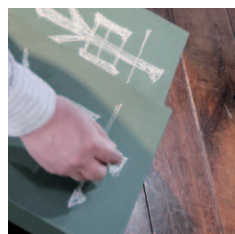
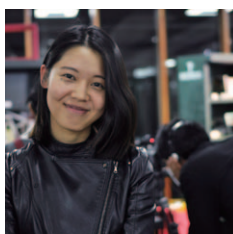
Tel:03-3568-2102 fax:03-3568-2201

kyodoku@eel.co.jp

◎2012年12月3日以降の連絡先

〒156-0044 東京都世田谷区赤堤2-15-3

Tel:03-5301-2214 fax:03-5301-2215



EDITORIAL ENGINEERING LABORATORY
HIGASHI-GUMI
MIKAN-DESIGN
BAKUDAN